

《耕畜連携・地産地消に向けた庄内牛低コスト化生産プロジェクト》

市町村	鶴岡市	対象地域	鶴岡市藤島地区	分野	畜産
実施主体名	中部肉用牛生産組合	代表者氏名	組合長 佐藤 一晴	住所又は主たる事務所の所在地・連絡先	鶴岡市野田目字砂田9 電話 0235-64-4576
実施主体構成	中部肉用牛生産組合 構成員4名				

プロジェクト 目標（5年後）	産出額（増加額）	108,000千円（4,846千円）				
	独自の目標項目	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内牛の低コスト生産に向け、耕種農家と連携し平成22年秋収穫期からのイネSGS（イネソフトグレインサイレージ）の活用による自給飼料の生産・調整・利用拡大に挑戦し、生産コストの低減に取り組む。 ・中部肉用牛生産組合発足30年以上経過し、安全・安心・安定供給と地域・飼育環境にやさしい取り組みを行ってきた。これまでの給水は、水道水を利用してきたが、一定水温が保たれる地下水に交換し、牛に与えるストレスを最小限に抑えることで、1日あたりの増体重の増加を目指し、飼育期間の短縮や事故率低減で更なる経営改善を図りたい。 				
各年次目標	現 状	1年目（H22）	2年目（H23）	3年目（H24）	4年目（H25）	最終年（H26）
	産出額	肉牛販売額 103,154千円	104,000千円	104,500千円	106,000千円	108,000千円
	独自の 目標項目	肉牛出荷頭数 300頭 自給飼料面積 10ha	300頭 18ha	305頭 21ha	310頭 24ha	315頭 27ha
プロジェクト 概要	◎実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・イネSGS利用による生産コストの低減。 ・地下水掘削による水道水代替を実施することによる肉用牛経営の安定と消費の拡大。（地産地消） ・転作における連作障害・雑草対策や圃場の美化。 				
	○産出額の増大	(4,846千円)				
	○雇用の創出	イネSGS製造過程において2～3週間位の臨時的雇用者（延べ50人くらい）が見込まれる。256人・日				
	○創意工夫	庄内では初めての試みとなるイネSGSだけではなく、青刈り麦も視野に入れ2年3作体系で自給飼料の生産を図る。				
	○実現性	戸別所得補償制度モデル事業と一体ですすめられる水田利活用自給力向上事業では、飼料用米など新規需要米に対する機運が高まり、肉用牛経営においてメリットがあり実現性に期待が持てる。				
	○地域への波及効果	全農山形県本部で販売する庄内牛のアピールポイントとなる事から、他飼育者への波及効果がある。				
	○その他					

	実施年度（平成22年度）	実施年度（平成 年度）
事業内容	イネSGS製造、地下水掘削	